



岐阜県立飛騨神岡高等学校

地域との連携企画の紹介



12月9日(金) 吉城高校の生徒会役員を本校に招き、生徒会同士の交流会を開きました。交流会に参加したのは吉城高校の生徒会役員7名と本校の生徒会6名。文化祭や生徒会役員選挙など、生徒会行事の運営方法などについて情報や意見を交換したり、飛騨市の高校として両校が協力して地域に貢献したりアピールできることは無いかなどを議論しました。話し合いの中で今後協力してできそうなことも見つけたり有意義な時間を過ごすことができました。



12月11日(日) 総合会館で開かれた飛騨市の建築・まちなみを残す会主催の『もくチャレ!』に本校と吉城高校の生徒が参加し両校それぞれが木製ベンチの制作にチャレンジさせていただきました。参加させていただいた本校の生徒は、地元企業の内定者や、建設・木工系の大学や各種学校に進学が決まっている3年生の5名。会場へ駆けつけてくださった都竹市長さんの質問に「難しいけど本当に楽しいです!」と笑顔で答え、昼食の時間も忘れて真剣に取り組んでいました。指導をくださったのは現代の飛騨の匠、荒木昌平さんと原大作さん。事前の入念な下準備と丁寧な指導で、飛騨の家具らしく金具を全く使わない骨太で温かみのある素晴らしいベンチが完成しました。完成したベンチは後日、飛騨市内の老人介護施設へ寄贈しました。



同日、神岡図書館で市内の読書会の皆さんと本校文芸部の生徒が「課題図書」をもとに交流。俳句などを通し本校の文芸活動を知ってもらうとともに、地元の方々と交流を深めました。

「春や春(森谷明子著)」と「17音の青春(神奈川大学)」を課題図書とし、事前に読んだうえでの交流でした。「春や春」は俳句甲子園に臨む高校生を描いた物語で、本校の生徒たちの姿とオーバーラップする作品です。一方、「17音の青春」は本校の生徒の作品も多数掲載されている句集で、この二冊を題材にして文芸活動について、また俳句・短歌に関することなど幅広く交流することができました。最後は参加者全員が俳句を一句ずつ披露しあいました。

参加してくださった一般の皆さんも文芸部の生徒たちの活動に感心してくださり、生徒たちも自分たちの活動を知っていただくことによって誇りが持て、とても楽しかったようです。この企画も今後定期的に行いたいと思っております。